

CHAPTER

# 02

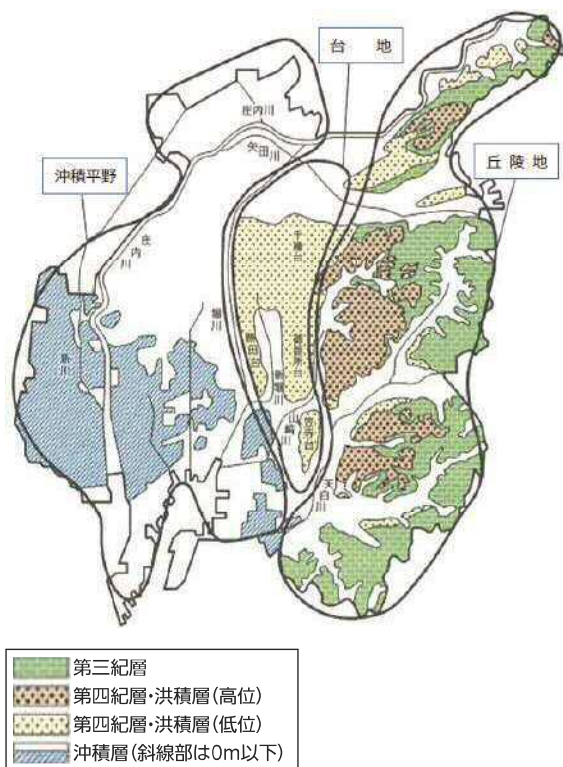
## 第2章 市を取り巻く状況

- 2-1 位置と地形
- 2-2 都市づくりの変遷
- 2-3 時代の潮流
- 2-4 名古屋の特徴

## 2-1 位置と地形

名古屋市は、地理的に日本のほぼ中央に位置し、中部圏の中枢となる都市としての役割が期待されています。

地形は、東部はなだらかな丘陵地、中央部は北から南になだらかに傾斜する平坦な台地、北・西部の沖積地は肥沃な濃尾平野の一部、南部は干拓事業により開発された地域で平坦な低地となっています。



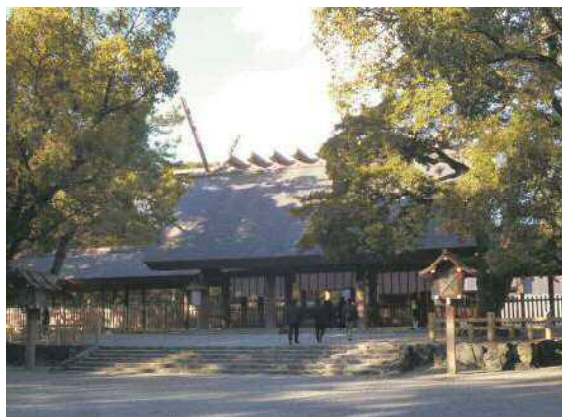
## 2-2 都市づくりの変遷

### 古代～中世

#### ▶ 熱田のまちの形成

- 5～7世紀頃、豪族の尾張氏が台頭し、この地域一帯を支配してきました。
- 尾張氏の墳墓とされる東海地方最大の断夫山古墳や、尾張氏の祀神をまつた熱田社がつくられ、社を核に次第に発展していきました。
- 上志段味や大高近辺には、伝承とともに尾張氏ゆかりの古墳や神社が存在しています。

■熱田社(熱田神宮)



■断夫山古墳



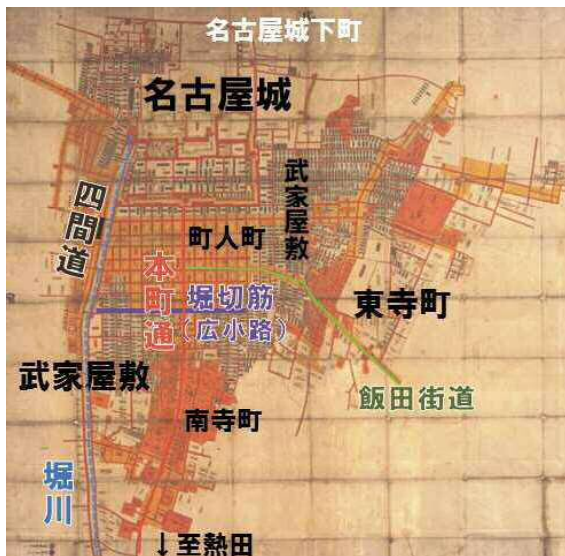
## 江戸時代



## ▶ 名古屋城築城と城下町形成

- 慶長15(1610)年、戦国の乱世を制した徳川家康は、名古屋台地の北端に名古屋城を築き、尾張の中心であった清須城下町を名古屋に移転(清須越)しました。
- 現在の名古屋の原型となる基盤型の町割りが形成されました。
- 城下町の物流を支える堀川が開削され、本町通とともに、古くからの交通の要衝であった熱田のまちと城下町を接続しました。

■江戸時代の都市構造



出典)名古屋城絵図(徳川美術館蔵)をもとに作成

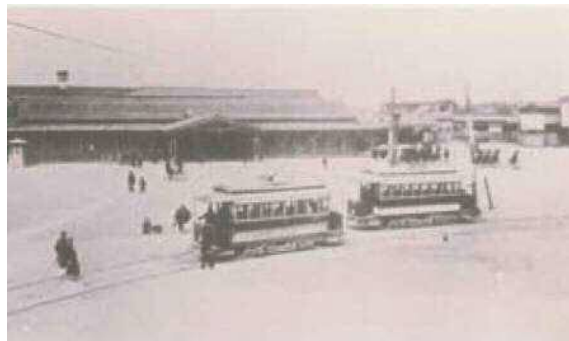
## 明治～大正～戦前



## ▶ 巨大インフラの整備とものづくり産業都市としての開花

- 鉄道、道路、港湾、運河などの都市の骨格となるインフラの整備が進捗していきました。
- インフラ整備を背景に、ものづくり産業都市として大きく発展しました。

■名古屋停車場(明治39年頃)(名古屋市交通局蔵)



■開削当時の中川運河





高度成長～低成長期

## ▶ 人口増加やモータリゼーションへの対応

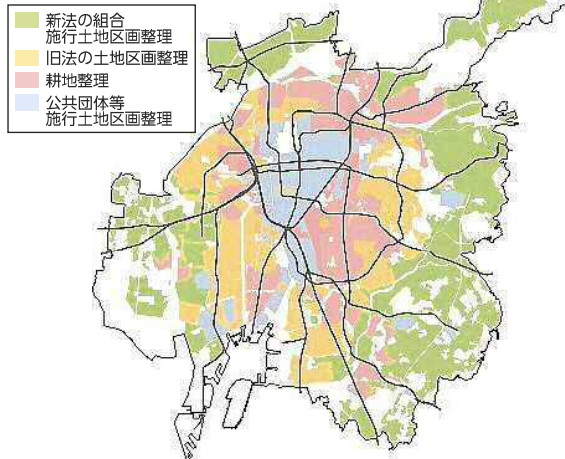
○組合施行土地区画整理事業による郊外部の宅  
地開発や車社会に対応した道路整備事業を実  
施しました。

○基盤整備の緊急性の高い地区などへの総合的な取り組みを実施しました。(地区総合整備)

■名古屋都市計画図(S38)



■土地区画整理事業施行区域



## 平成

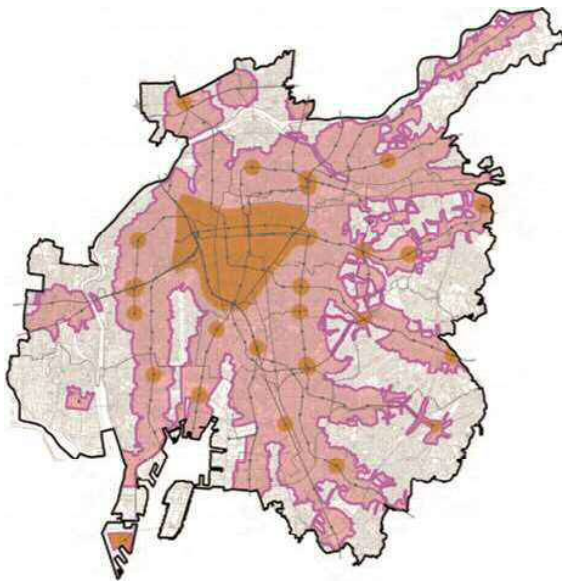
## ▶ 都市再生の推進

○少子高齢化の進展や国際競争の激化など、社会・経済の大きな転換期を迎える中で、官民連携のもとで都市再生を推進してきました。（都市再生緊急整備地域の指定、立地適正化計画の策定など）

■都市再生緊急整備地域の指定状況

| 地域名                         | 面積     | 当初指定         |
|-----------------------------|--------|--------------|
| 名古屋駅周辺・伏見・栄                 | 約401ha | H14(2002).7  |
| 名古屋臨海                       | 約145ha | H14(2002).10 |
| 名古屋千種・鶴舞<br>(H29(2017).8解除) | 約 24ha | H14(2002).10 |

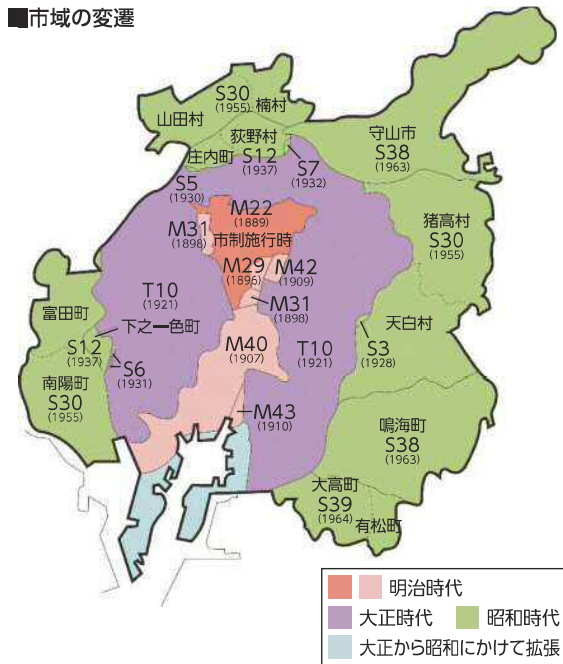
■立地適正化計画における都市機能誘導区域



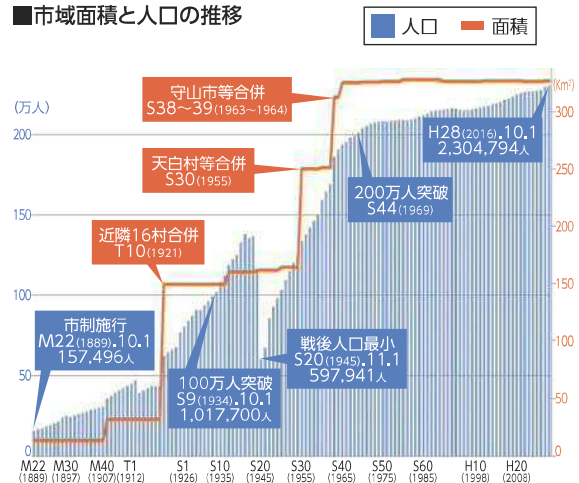
## ▶ 市域の拡大と人口の増加

○近隣市町村との合併により市域の拡大が進むとともに、人口も市制施行から現在は約15倍に増加しました。

■市域の変遷



■市域面積と人口の推移



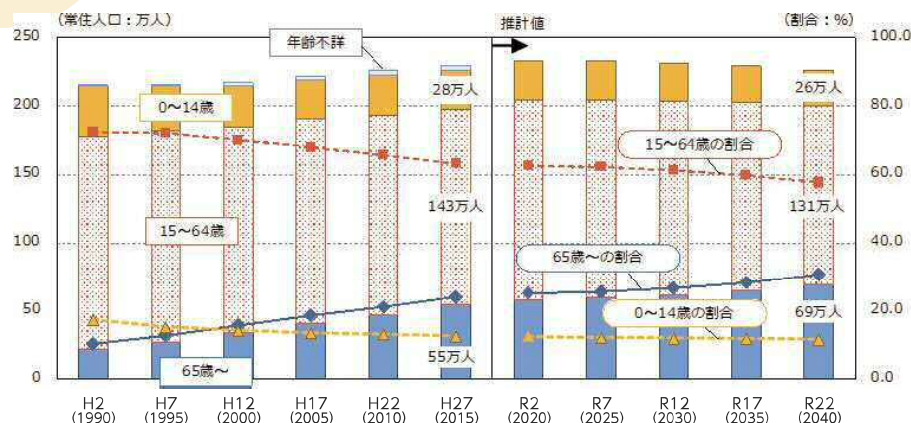
## 2-3 時代の潮流

### ▶ 人口構造・動態の変化

本市の人口は令和5(2023)年にも減少に転じる見込みで、人口減少は広域で見るとより顕著です。年少人口及び生産年齢人口の比率が低くなり、高齢者率がさらに高まっています。また、高齢世帯の占める割合も増加しています。

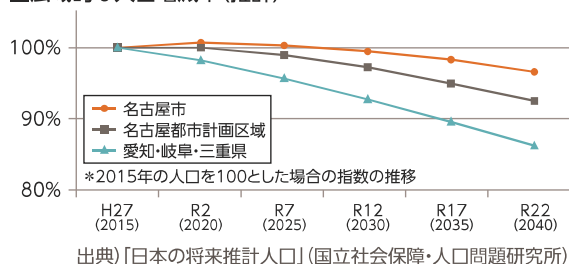
本市との社会増減の状況は、関東以外の地域では社会増で、国外からの社会増が最多です。対関東では、平成24(2012)年度以降、社会減が拡大傾向にあります。

#### ■本市の年齢3階級別人口

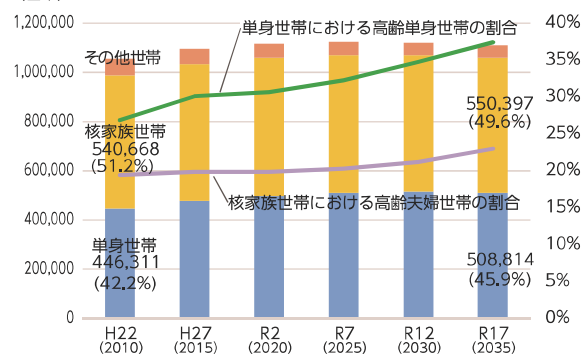


出典)実績値:統計なごやweb版(国勢調査結果より作成) 推計値:名古屋市推計(平成30年10月1日時点)

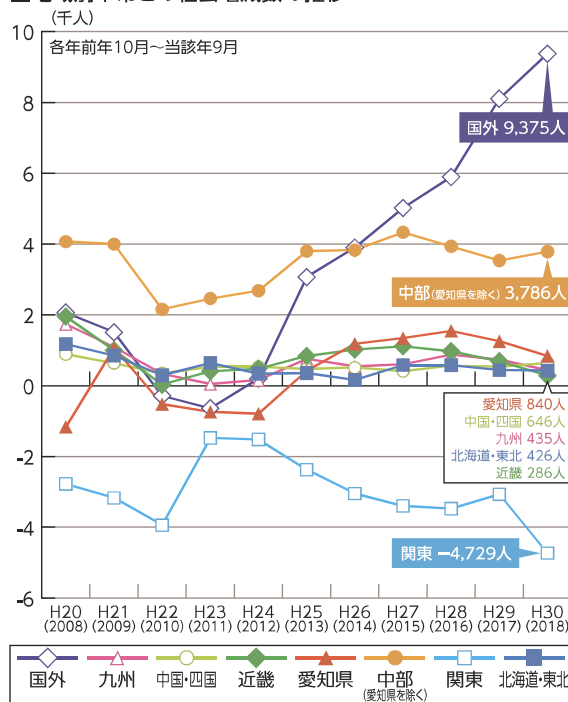
#### ■広域的な人口増減率(推計)



#### ■本市の世帯の家族類型別世帯数



#### ■地域別本市との社会増減数の推移



※平成24年7月の法改正により、外国人の国外転出の集計方法が変更されたため、平成23年以前と平成24年以降で、国外の社会増減数に連続性がない。

出典)統計なごやweb版

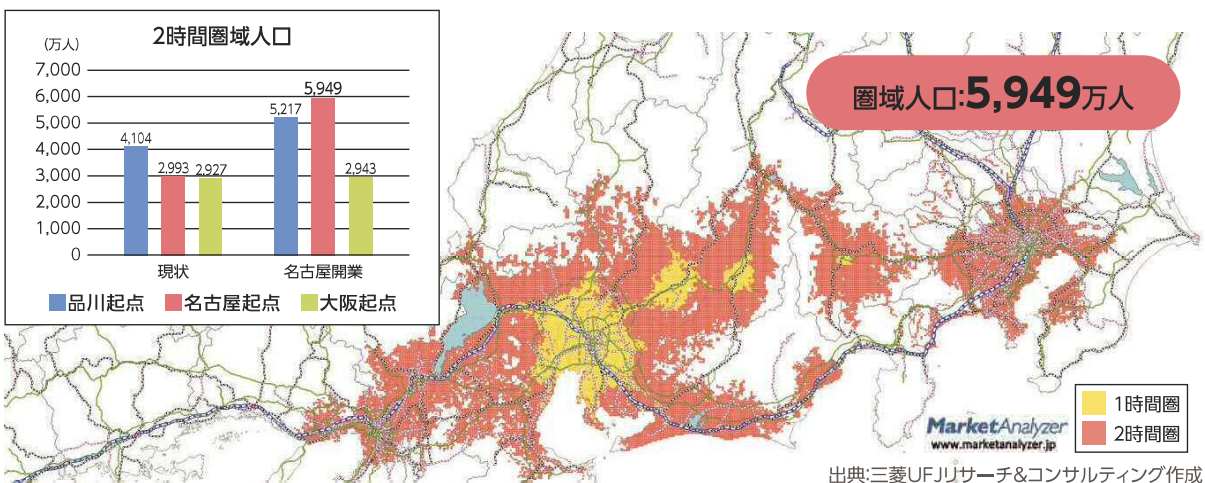


### ▶ リニア中央新幹線の開業、スーパー・メガリージョンの形成

リニア中央新幹線開業により三大都市圏それぞれの交流圏域は大きく拡大します。とりわけ、名古屋駅を起点とした2時間圏域人口は約6,000万人と最大規模になると試算されています。

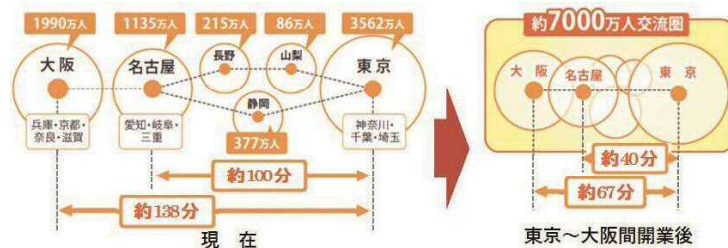
また、リニア中央新幹線により三大都市圏が一体化した世界最大の広域経済圏である、スーパー・メガリージョンが形成されます。

#### ■交流圏域の拡大のイメージ(名古屋-品川開業時)



一方で、東京・大阪に人口、経済活動が吸い取られるスロー現象におちいる懸念もあり、その影響を最小限に抑え、本市の成長につなげていく対策を進めることが重要です。

#### ■リニア中央新幹線開業(東京-大阪間)による交流圏の変化



### ▶ 産業構造の転換、自動車産業における変革

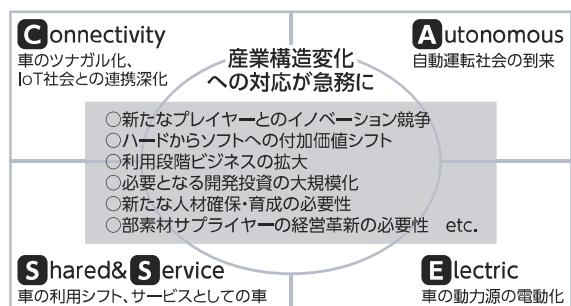
IoTの広がりやAIの進化などの技術革新により、産業構造や就業構造に劇的な変化をもたらす可能性があり、圏域の中核産業である自動車産業においてもその対応が急務となっています。

#### ■産業界における技術革新

- 実社会にあらゆる事業・情報が、データ化・ネットワークを通じて自由にやりとり可能に **IoT**
- 集まった大量のデータを分析し、新たな価値を生む形で利用可能に **ビッグデータ**
- 機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断が可能に **AI**
- 多様かつ複雑な作業についても自動化が可能に **ロボット**

出典)第四次産業革命の進展と産業・就労構造の変化(経済産業省)

#### ■自動車産業を取り巻くメガトレンド(CASE)

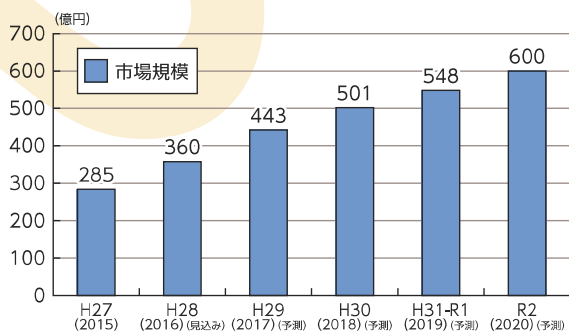


出典)経済産業省の自動走行とデジタルガバメントに向けた取り組み(経済産業省)

## ▶ 価値観や働き方などの多様化

シェアリングエコノミーの国内市場規模が、近年大きく拡大し、今後もその傾向が続くと推計されます。また、ICTを活用し、時間と場所にとらわれないテレワークを実施している企業も近年上昇傾向にあります。女性の社会進出に伴い、共働き世帯の割合も増加しています。

■シェアリング・エコノミーの国内市場規模推移と予測



出典) 矢野経済研究所  
「シェアリングエコノミー(共有経済)市場に関する調査」  
(平成28(2016)年7月19日発表)

■全国の共働き世帯の増加



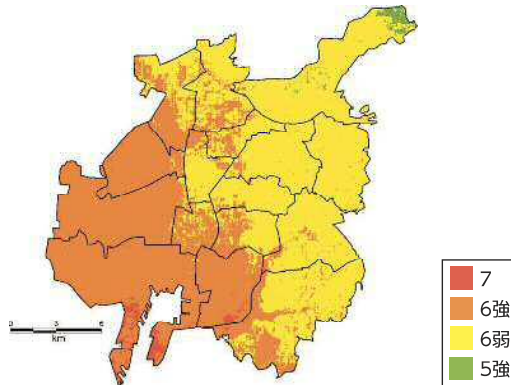
出典) 国勢調査(総務省)

## ▶ 激甚化する自然災害

近年、大規模な地震が多く発生しており、南海トラフにおいて、M8～9クラスの地震が発生する確率は、30年以内に70～80%と予測されています。本市の震度分布の想定は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの場合、市域ほぼ全域に震度6弱、6強、港区をはじめとした一部地域で震度7とこれまでに経験のしたことのない被害の発生が想定されます。

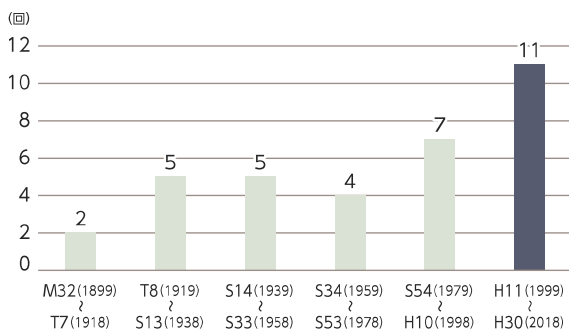
また、豪雨災害についても、約30年前と比較して発生回数が顕著に増加するなど、短時間に強い雨が降る傾向にあります。

■あらゆる可能性を考慮した最大クラスの震度分布



出典) 南海トラフ巨大地震の被害想定について  
-震度分布、津波高等-(名古屋市)

■本市の20年ごとの1時間降水量50mm以上の発生回数



出典) 名古屋地方気象台観測値より名古屋市作成



### ▶ 観光需要の高まり

本市への観光客数も増加傾向であり、アジア諸国の経済成長を背景に、今後も増える可能性があります。

### ▶ グローバル化の進行

国際的な人材獲得競争が激しくなる中で、近年の高度外国人材の在留者数は伸び続けているなど、グローバル化が進行しています。

### ▶ 地域主体、官民連携まちづくりの活発化

近年、まちづくり会社やNPOなどの民間組織がまちづくりに積極的に取り組む事例が増加しています。

また、取り組みを自立的・継続的なものとするために、成果や収益をまちに還元するといった地域を運営する視点も重要となっています。

都市再生特別措置法に基づく都市再生推進法人制度や都市計画協力団体制度、地域再生法に基づく地域再生エリアマネジメント負担金制度など、官民連携の促進のための制度も充実してきています。

### ▶ 都市の持続性に対する意識の高まり(SDGs等)

平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標であるSDGsの達成に向けた取り組みが国レベルで進行しています。

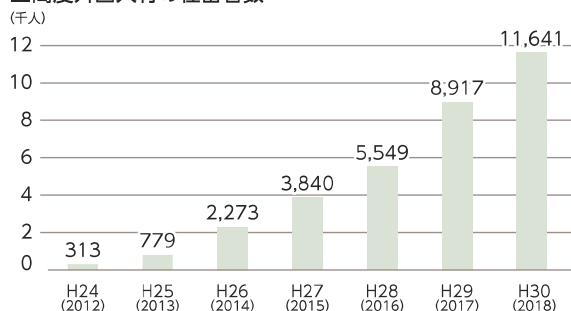
また本市は、令和元(2019)年7月、SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、国から「SDGs未来都市」に選定されました。

■本市の宿泊施設の宿泊客数 延べ人数の推移



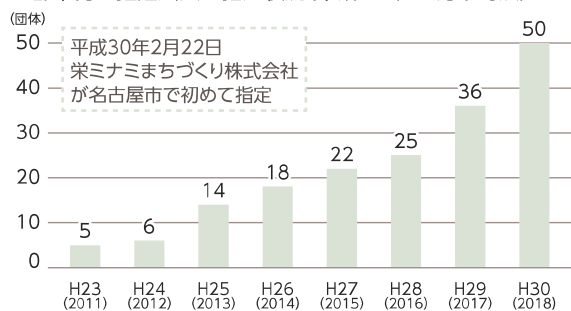
出典)名古屋市観光客・宿泊客動向調査

■高度外国人材の在留者数



出典)出入国在留管理庁資料

■都市再生推進法人の指定状況(平成30年12月末時点)



出典)国土交通省資料

■持続可能な開発目標(SDGs)

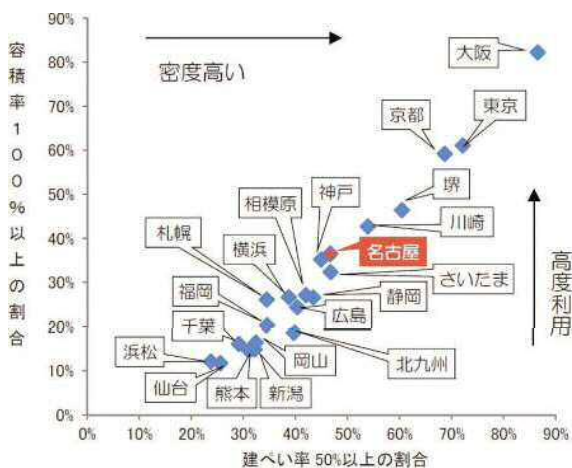


## 2-4 名古屋の特徴

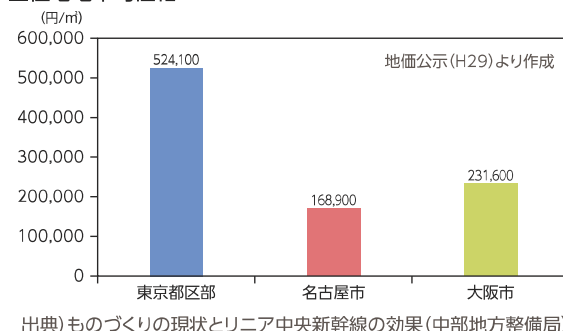
### 空間的・時間的・経済的なゆとり

名古屋市は大都市でありながら空間的なゆとりがあります。また安定した雇用、比較的安価な地価、短い通勤時間といった特性を有します。

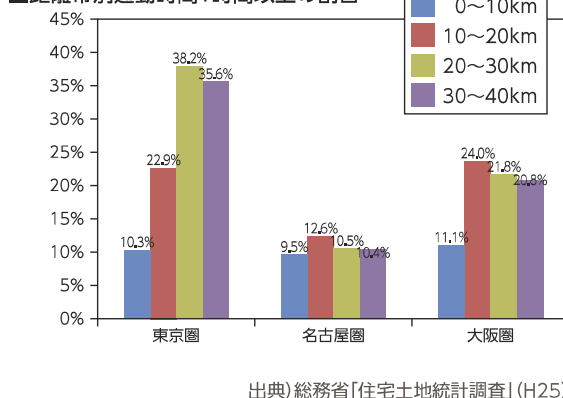
#### 建ぺい率、容積率の使用状況



#### 住宅地平均価格



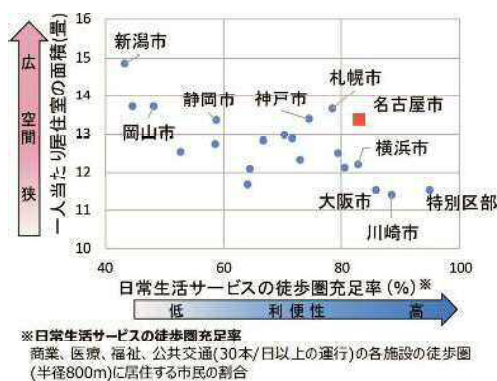
#### 距離帯別通勤時間1時間以上の割合



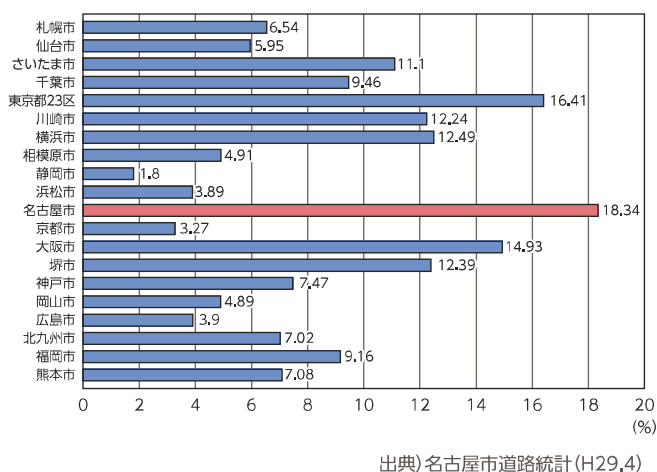
### 充実した都市基盤・施設

名古屋市は、道路をはじめとした都市基盤が充実し、また、商業・医療・福祉などの日常生活サービスが充実するなど生活利便性が高いと考えられます。

#### 日常生活サービスの利便性



#### 道路率



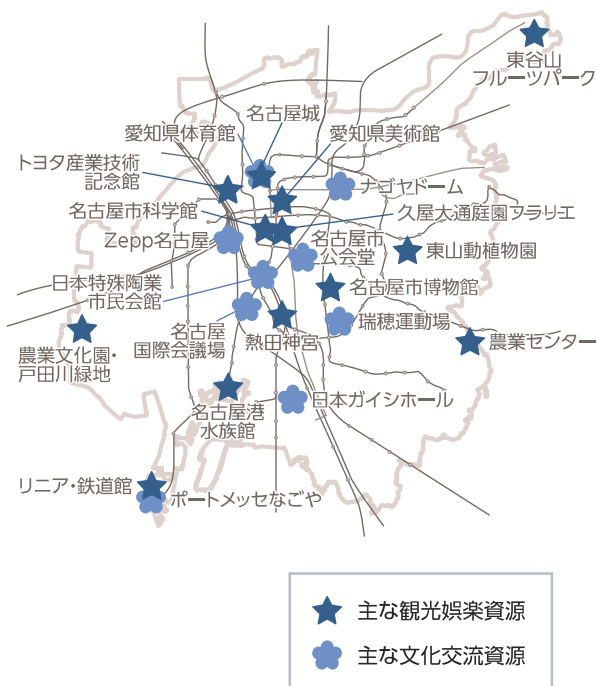
## ▶ 豊富な魅力資源、緑・水辺空間

名古屋市は三英傑ゆかりの地であり豊富な歴史資源を有し、また広域的な集客力のある魅力的な緑・水辺空間を有します。

### ■市内の主な歴史資源



### ■市内の主な観光・文化資源



### ■市内の主な緑・水辺空間





## ▶ 名古屋大都市圏に見る豊富な観光資源

圏域には、風光明媚な自然環境や全国的な観光名所が数多く存在しています。

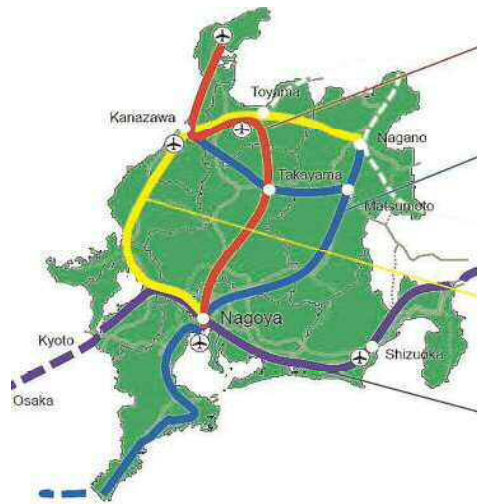
※名古屋大都市圏(以下「圏域」という。)は、名古屋市中心に概ね30～50kmとしつつ、産業、観光、防災などの分野ごとに柔軟に捉える範囲

### ■圏域における観光資源



出典)名古屋大都市圏有識者検討会議

### ■昇龍道モデルコース



出典)中部運輸局資料

## ▶ ものづくり産業の集積

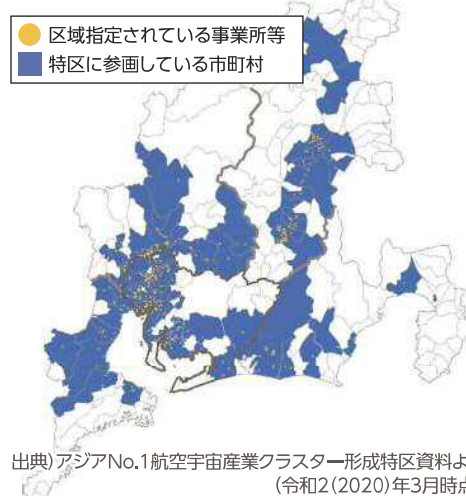
圏域にはものづくり産業を中心とした産業クラスターが広がり、サプライチェーンを形成しています。特に西三河に自動車産業、名古屋市をはじめ愛知県、岐阜県、三重県、長野県、静岡県に航空宇宙産業の関連企業が多く集積しています。

### ■主な企業の分布



出典)東海経済のポイント2014(中部経済産業局)より  
名古屋市作成

### ■アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区



出典)アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区資料より  
(令和2(2020)年3月時点)

### ■自動車専用道路の整備状況



※点線区間は事業中

## ▶ 陸海空のインフラの充実

国土の中心に位置する本市周辺において、自動車専用道路の整備が進捗中です。また、圏域のものづくり産業を支える名古屋港や、国外との交流の玄関口となる中部国際空港を擁します。

※名古屋第二環状自動車道の西南部・南部区間は、令和2(2020)年度に開通予定。  
(市内にICを3箇所設置予定)